

# 川崎市立川崎高校附属中 適性検査

データ 時間・配点 検査Ⅰ：45分 200点 検査Ⅱ：45分 200点

2019年度募集定員：120名 / 2019年度志願者数：519名 / 2019年度志願倍率：4.33倍

## 基本重視・読解重視の問題群——ミスしないていねいさが課題

### □問題の概要

#### 超「読解重視」で「正確さ」重視

全体に「示された資料をていねいに正確に読む」問題が多く見られます。複数の資料を読んだり、複数の条件に従って作業したりするなどの「複線的・並行的処理」を求める問題は少なく、シンプルな読み取りで解決する問題が検査Ⅰで約7割（10/14問）、検査Ⅱでおよそ3分の2（11/17問）あります。

検査Ⅰは国語読解・作文です。詩とその解説など（説明文・会話文・音読台本）が計4点並びます。資料は多いのですが、問いはシンプルです。続く情報処理（日本の人口）も主にグラフのシンプルな読解です。

検査Ⅱは、1「リサイクルなど3つのR」、2「時計の針の運動」、3「月と地球の関係」が並びます。1は検査Ⅰに多かったシンプルな読解が大半です。2と3は、中学入試や各地域の適性検査の「定番」的な設問が多数並びます。

### □設問の特徴

#### 「正確な読解」と一部の「川崎らしい問題」で差がつく

県内の適性検査では比較的取り組みやすいものになっています。ただし、読む分量は少なくないので、読解が少しでも雑になると、ミスで失点し、差をつけられてしまいます。「正確さ」が第一の課題です。

「川崎附中らしい」問題は、2種あります。第一に他校では事実上無くなった「自分の意見」を書くものです。「話し合い活動で最も大切なこと」「ブラごみ削減のための工夫」など、分かりやすいテーマですが、情報をよく読んで整理し、その上で意見をまとめる作業が必要です。第二に、「原理の説明」です。資料をもとに、時計の長針の長さや動く速度の関係を説明します。理解力+表現力が課題です。

### □昨年との比較

#### 易化 設問数減少・読解のシンプル化

易化しました。「問題の概要」で書いた特徴が大きく強まったことと、特に検査Ⅱの設問数大幅減（昨年度25→17）が原因です。

「思考型」の設問が多いのは変わっていませんが、シンプル化によって「ていねいに読めばストレートに正解できる」ので、ミスで差がつくタイプの問題になりました。

### □課題と対策

#### 読解・情報処理の精度向上+中学入試の定番問題も有効

まず、幅の広い読解力です。グラフや表他、複数の資料を読むようなレベルまで（国語に限らない）読解問題を練習すべきです。

もちろん、計算などの基本スキルも重要です。

また、今年度の傾向では、中学入試の基本・定番的な問題の練習が大いに有効です。

難問に手を広げるより、足元をしっかりと固めるような学習が「ミスしない」ことを求める川崎附中の対策の中心です。

### ■2019年度 設問一覧

検査Ⅰ	設問	分類	教科	種別	配点
問題1	(1)	記述	国	思考	7
	(2)	記述	国	思考	7
	(3)	選択	国	思考	4
	(4)	選択	国	思考	4
	(5)	記述	国	思考	10
	(6)i	選択	国	思考	20
	(6)ii	選択	国	思考	10
問題2	(7)	作文	国	思考	75
	(1)	選択	社	思考	12
	(2)	説明	社	思考	15
	(3)	記述	社	思考	10
	(4)	選択	社	思考	16
	(5)	選択	算	作業	6
(6)	選択	国	思考	4	

検査Ⅱ	設問	分類	教科	種別	配点
問題1	(1)	説明	社	思考	10
	(2)	選択	算	思考	10
	(3)	選択	国社	思考	5
	(4)	選択	社	思考	10
	(5)	説明	社	知識	15
	(6)	説明	社	思考	10
問題2	(1)	計算	算	作業	10
	(2)	記述	算	思考	15
	(3)	計算	算	作業	15
	(4)	計算	算	作業	15
	(5)	説明	算	思考作業	20
問題3	(1)	計算	理	作業	8
	(2)	計算	理	思考	10
	(3)	計算	理	思考	16
	(4)	計算	理	思考	8
	(5)	選択	算社	思考	5
	(6)	説明	理	思考	18

※分類…設問形式を、選択・計算・記述・作図・説明・作文に分類  
 ※種別…知識：教科で学習した知識を問う問題 作業：与えられた情報や条件をもとに作業する問題 思考：解答への道筋を仮説や推理によって考える問題 ☆：特に難しい問題